

市民フリースピーチ&市民と議員の懇談会（議会報告会）

（令和6年度・下半期 事業）

○開催日： 令和7年2月15日（土）

○参加者： 合計48名（市民28人、議員20人）

○実施方法： 議場でのフリースピーチ、テーマごとの分科会

○内容

第1部 市民フリースピーチ（5名）

第2部 テーマについての意見交換

- ① 「災害から家族と地域を守る！市民防災の力」（総務企画委員会）
- ② 「脱炭素に向けて私たちができること」（建設市民委員会）
- ③ 「子どものための多様な居場所づくりを」（教育福祉委員会）

市民フリースピーチ&市民と議員の懇談会

（議会報告会）

フリースピーチ
初開催！

議会では、3月定例会で令和7年度の当初予算案について審議します。
今回、市民の皆さんのご意見をお聴きし、予算審議や今後の委員会活動等に生かすための懇談会を行います。市民によるフリースピーチを聴いた後、参加したいテーマに分かれて気軽に議員とお話いただけます。ぜひご参加ください！

日時 2月15日（土） 午後2時～4時
場所 市役所5階 議会フロア

第1部 ～ 議場で語ろう ～
初！市民フリースピーチ

第2部 ～ 議員と語ろう ～
気になるテーマでの懇談

フリースピーチとは？

可見市をよりよくするには？ もっとこうしたら…
普段思っていることはありませんか？
あなたの意見を自由に発言してください。

議員や懇談会に参加される市民の方が、あなたの熱い思いをお聴きします。
スピーチの内容は、担当の常任委員会などで協議・対応を検討します。

- スピーチ内容 可見市を良くするアイデア等
- 会場 市役所 議場
- 対象者 市内在住、在勤、在学の方
- 募集人数 4人
- 発言時間 5分以内
- 申込方法（次のいずれか）
 - ・議会ホームページか議会事務局窓口にある「申込書」を下記の申込先に提出する。
 - ・2次元バーコードを読み取り、Webフォームにて申し込む。
- 申込締切 2月7日（金）午後5時

※申込者多数の場合は、審査の上決定します。また、申込書に記載の発言内容によっては参加を許可し兼ねる場合があります。



申込Webフォーム

第1部のスピーチ（40分程度）を聴いた後、各常任委員会が設定した3つのテーマに分かれて懇談します。
※どのテーマに参加されるかは受付時に確認させていただきます。

- 会場 市役所 5階会議室
- テーマ

① 災害から家族と地域を守る！市民防災の力
② 脱炭素に向けて私達ができること
③ 子どものための多様な居場所づくりを

【お願い】
・午後1時50分までにお越しください。
・※市役所東口からお入りいただけます。
・事前申込がなくても参加できますが、おおよその人数把握のため、Eメールやお電話等で参加希望の旨（お名前と参加希望のテーマ）をお知らせいただくと助かります。
・第1部の市民フリースピーチを聴いていた後に、懇談となります。
・当日の様子は議会広報紙等で紹介させていただきます。
・報道機関の取材が入ることがあります。



【問い合わせ・申し込み先】 可見市議会事務局 議会総務課
TEL 0574-62-1111（内線3502） FAX 0574-63-3972 Eメール gikai-jimu@city.kani.lg.jp

第1部 ～議場で語ろう～「市民フリースピーチ」



1.中本由美子さん
「かたびら交通まちづくりを考える会から、帷子地区の交通について」



2.渡辺 武さん
「農業における耕作放棄地の活用」



3.永井 裕磨さん
「子育て支援の拡充を」



4.内間 寅男さん
「大災害時の備品について、障がい者への合理的
配慮について」



5.日比野 蒼士さん
「ボクが知る防災、みんなが知る防災」

第2部 ～議員と語ろう～「気になるテーマでの懇談」



開催日時	令和7年2月15日(土) 午後2時50分～3時40分	開催 会場	全員協議会室
参加者数	1班 市民7人、議員3人(計10人) 2班 市民9人、議員2人(計11人)		
実施内容	第2部 テーマ「災害から家族と地域を守る！市民防災の力」		
質疑および 主な意見等	<p><u>主な意見など</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会ごとの自主防災組織や防災士との連携ができると良い。 ・自治会未加入者や外国籍の方々同士が防災に関わっていける体制を各地で進めていくことが大切である。 ・「地域に住む全ての人が助け合う」という考えが共有されるような施策を展開していくことが大切。(その障壁となる個人情報について柔軟に活用していかなければならない) ・自治会間、自治連合会間、自治体間の連携が大切である。防災の会と一緒にやれることを改めて検討したい。 ・(フリースピーチをした中学2年生の)親として、子どもが防災に興味を持って取組んでいるので、家族は災害に対する不安が軽減されており助かっている。 ・DIG(災害図上訓練)を学び、家の回りのDIGを作って防災対策として危険箇所を共有した。ゲーム感覚のできる子どもでも取り組みやすく子どもが興味を持つような訓練を地域で行なえれば、防災意識は高められる。 ・学校の訓練「命を守る訓練」を充実させるには、学校コミュニティスクールで地域の方に防災訓練をサポートいただきたい。 ・泥水をきれいにする排水装置を作ってから、備蓄用の水は購入していない。 ・避難所開設には、ダンボールベットを早く組み立てられるようにしないといけないと感じた。 ・地域の簡易トイレなど防災備蓄品には、何がどれだけあるかを住民が把握しておくが良い。 ・ワクワク防災ジュニアクラブ可児で、子どもの防災意識の向上を図るための活動を2年前にはじめた。国・県の補助金を活用したが本年は無い。継続のため工夫が必要となっている。 ・地区防災リーダーとして、地域の土砂災害が8ヶ所起きたときに地域住民と状況を共有することが大切だと感じた。そして、その災害から、どういふ被害が考えられるか、その対策が訓練すべき内容になると思う。(地域の実情に合わせた防災訓練をやるべき) ・防災ハンドブックを作成した。5つの自治会の26班にそれぞれ防災士を作りたいと思っている。 ・防災訓練では地域の1番安全な場所に集まるようにしている。 ・防災訓練や研修には参加するが、自分の家で実践しているかということになっていないことが多いのではないか。 ・実践が出来るように地区センターまつりで炊き出しをやるようにしている。 		

- ・他地域の活動の話を聞いて参考になった。
- ・自治会研修で市はこれをやれ、あれをやれというが、自治会長は、仕事で地域にいない場合もある。もっと行政のフォローが必要である。
- ・以前、防災訓練を雨天のために中止したが、そういった時こそ得られる教訓があるので、今後は実行したい。

意見から浮上した課題

- ・地域ごとで災害が違う。自治会の規模も違う。
(地域の実情に合わせた防災訓練を)
- ・地区センターの防災備蓄品を住民が知らない。
- ・自治会未加入者や外国籍の方々同士が防災に関わっていける体制を各地で進めていくことが大切である。
- ・各地区センターにて、防災士のリストの閲覧を可能として欲しい。
(自治連合会名簿に防災士を加えることは可能か。)
- ・学校だけでは、防災訓練の内容に限界がある。

考察

地域防災における連携の重要性

- ・懇談会で出された意見を分析すると、地域防災における「連携」が最も重要なキーワードとして浮かび上がり、自治会と防災士、自治会間、そして自治連合会間の連携が効果的な防災体制構築の基盤となると考えられる。特に「地域に住む全ての人が助け合う」という理念を共有することが、包括的な防災コミュニティ形成の核心ではないか。

課題と解決への道筋

- ・多様性の包摂：外国籍住民や自治会未加入者の防災参加促進は重要である。
- ・世代間交流による防災意識の向上：中学生の防災への関心が家族全体の不安軽減につながったという事例は注目に値する。DIGなどのゲーム形式の防災訓練は、若年層の参加を促進し、家庭内での防災意識向上に効果的であると考えられる。
- ・実践重視の防災活動：知識と実践のギャップが指摘されている。地区センターまつりでの炊き出し訓練など、日常生活に溶け込んだ形での防災活動が継続的な防災意識維持に貢献するであろう。

具体的提案

- ・地域特性に応じた防災計画：各地域で想定される災害の種類や自治会の規模に合わせたカスタマイズされた防災計画の策定を推進すべきではないか。
- ・防災リソースの可視化：地区センターの防災備蓄品リストの共有や自治連合会と防災士の顔の見える関係づくりの構築など、地域の防災リソースを住民に明示することで、緊急時の対応力向上に繋げられるのではないか。
- ・学校と地域の連携強化：学校の防災訓練をコミュニティスクールの枠組みで地域住民がサポートする体制構築は、教育効果と地域防災力の両面で有効と考えられる。

【結論】

形式にこだわらない実践的防災活動と、あらゆる住民を包摂する連携体制の構築が、持続可能な地域防災の鍵となる。「楽しさ」を取り入れながら防災意識を高め、互いに学び合う姿勢を育てることで、災害に強いコミュニティづくりの基盤となるであろう。DIGという手法の有効性などは今後も検討課題に追加し、調査・研究していきたい。

令和7年2月15日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

総務企画委員会 委員長 松尾和樹

開催日時	令和7年2月15日(土) 午後2時40分～3時45分	開催 会場	第2委員会室
参加者数	市民4人、議員8人(計12人)		
実施内容	第2部 テーマ「脱炭素に向けて私達ができること」		
質疑および 主な意見等	<p>進行：奥村新五 記録：前川一平</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再資源として活用できるものがゴミとなっており、もう少し経済的にも生かせることから、ゴミの分別を細分化して行えないか。 ・私達は、会議等でペットボトルでの水、お茶の提供は環境問題を考え無くしている。特に、議会においてはペットボトルを無くしマイボトルとすること。 ・公共交通のあり方も変化しており、EVバスを導入して頂きたい。 ・EV自動車については、電気だけに頼るのではなく、水素など他の方から見直してほしい。 ・将来子ども達が、大人になったときどうしたらいいか、学校教育の中で環境教育をしっかり行っていくことが大事である。 ・環境を保全していくうえで植林したが木材が活用されないし、田畑を保全していくことも大切であり、農業や工業など、物を作ることが素晴らしいことを広めて欲しい。 ・レジ袋を減らすことは浸透したが、食品トレイはまだ減っていない。トレイは、商品を見せるためだけのものであり、商品販売の際トレイを外したり、スーパーなどと連携しポイント制度などを考えて食品トレイを減らしていくことが必要。 ・脱炭素に向けた取り組みを一步進めたら、元に戻らないようにして頂きたい。 <p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の参加者が4名と少なかったが、生活に身近なところから、将来の脱炭素化に向けて具体的に取り組むべきことについて、意見を頂いた。会議等でのペットボトルの廃止は議会としても直ぐに取り組めることであり、市民へ取り組みを示していくことができる。 また、今まで回収されなかったプラスチック容器などゴミとして処分されていたものもあり、分別の細分化を行えないかとの意見があった。現行の分別収集より経費は掛かると思うが、行政が率先して再資源化に向け取り組みを示すことも大切である。 さらに、行政だけでなくスーパー等の企業とも協力し脱炭素、資源再利用に向けて取り組む必要がある。 		

	<p>さらに、頂いた意見にもあったが、長期的に見れば教育が重要になってくる。</p> <p>いずれにしても、議会、行政が直ぐにできることは実行し、その取り組みを市民に示すとともに、脱炭素に向けた取り組みを後戻りしないよう、しっかりと取り組んでいくことが大切である。</p> <p>少ない参加者であったが、幅広く意見を頂き、関心の深さを認識した。今後、委員会として今回のテーマで多くの参加者を得て、さらに幅広い分野にわたり市民の皆様と意見交換を行い、環境問題の課題解決に向け取り組んでいくこととしたい。</p>
--	--

令和7年2月18日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

建設市民委員会 委員長 伊藤 壽

開催日時	令和7年2月15日(土) 午後2時50分～3時40分	開催 会場	第1委員会室
参加者数	市民6人、議員6人(計12人)		
実施内容	第2部 テーマ「子どものための多様な居場所づくりを」		
質疑および 主な意見等	<p>【第1グループ】 進行：渡辺 仁美議員 記録：野呂 和久議員</p> <p>【第2グループ】 進行：酒向 さやか議員 記録：川合 敏己 議員</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で子ども達との関わりはある。しかし誰が不登校なのか、そうした話題や情報は耳に入っていない。その為、地域の不登校児童等の状況は分からないというのが実情だ。(プライバシー保護が影響しているからか?) ・LINE等の活用が多くフェイスT0フェイスの関係が薄れている。そのためか親のコミュニケーション力が落ちてきているのではないか。日本人の若い世代の親どうし交流が薄いことも子どもの居場所づくりに良くない影響があるのではないか。 ・子育て世代、若い世代の皆さんがグループでお互いの意見を出し合うこうした場を設けることが必要と思う。 ・外国籍の方々を理解して交流を深めてコミュニケーションをしていく必要がある。まずは日本人が理解をする努力が必要である。 ・林間学校など野外活動を可児市も実施していることは聞いているが、宿泊も1泊ではなく数泊かけて実施することで様々な経験をすることは、子ども達の成長につながると思う。 ・複式学級など少人数学級も必要。続けていけるようにしていくべき。 ・多くの子どもはゲームやSNSといったオンライン空間でいくつも居場所を持っている。しかし親はそのバーチャル空間のことをよく知らない。危機管理上できるだけ親が情報を監督することが望ましい。 		

・ 現在増え続けている不登校は決して悪いことではない。学校に行かないことを悪とする考え方を見直す必要がある。個性を大切にした教育が大切である。

・ これまでの子どもの教育環境はハード面の整備が中心であったが、これからはメンタルを充実するような教育が必要である。

【考察・所感】

・ 全国的に核家族化や高齢化していること、若い世代の自治会未加入数が増加していること、コロナ禍を経てそれまでの人間関係が薄くなってしまったこと、また個人情報保護を重視する社会になったことで、地域の中で知らない若い世代や子どもが増えてきているといったご意見があった。そして地域コミュニティ内の人間関係が薄くなっているため、ひと昔前のように地域の高齢者が子どもたちを見守りたくてもそれが難しくなっているといった意見もあった。

・ 今は熱中症や自動車の交通量の増加、不審者がでるといった様々な危険性もあり、地域の中で安心して遊ぶことができる子どもの居場所がめっきり減ってしまっている。こうした社会の変化に対応する視点で、子育て支援として安心安全な子どもの居場所づくりを考えていくことは必要なことであると再認識することができた。

・ 今回の懇談会では、主にご年配の市民の方との懇談となったが、次回以降に開催を予定した場合、子育て現役世代の方々を対象とし、例えば家庭の居場所、学校や教育機関の居場所、地域コミュニティの居場所、趣味やスポーツの居場所、デジタル空間の居場所、文化や多様性に応じた居場所など、テーマをもう少し絞って具体的な意見が出し易くする必要があると感じた。

市民参加は6名であったが2グループに分かれて懇談を行った。

各グループとも議員3名、市民3名にしたことで、市民の皆さんが話す時間を多く持てたことは、前年度2月に行った懇談会と比較して良かったと思う。

令和7年2月28日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

教育福祉委員会 委員長 川合敏己

R7.2.15 市民フリースピーチ&市民と議員の懇談会 アンケートまとめ

(参加者市民 28 人中 25 人提出)

問1 本日の意見交換は良かったですか

(1) 第1部 (市民フリースピーチ)

…①良かった 25 件、 ②良くなかった 0 件、 ③どちらともいえない 0 件

【良かった】(抜粋)

- ・色々な市民の意見を聴くことができた。
- ・短い時間ではあったが市民の声を聴くことができた。
- ・テーマごとの課題が理解できた。
- ・初の試みだったから。
- ・若い人の意見が聞いてよかった、中学生も頑張っていてよかった。
- ・アイデアにあふれていた。
- ・様々なテーマがどれもよかった。
- ・フリースピーチに出場でき、よい機会を与えてもらった。

(2) 第2部 (市民と議員の懇談会)

…①良かった 21 件、 ②良くなかった 2 件、 ③どちらともいえない 0 件

※その他、2人は懇談会不参加

【良かった】(抜粋)

- ・色々な市民の方と意見交流ができた。
- ・言いたいことが言えた。
- ・議員を身近に感じた。
- ・年代ごとでの考え方を知ることができた(テーマ3)

【良くなかった】

- ・時間が短かすぎる。
- ・人数が偏った。

問2 時間の長さは

(1) 第1部 (市民フリースピーチ)

…①長かった 2 件、 ②ちょうどよかった 17 件、 ③短かった 5 件 ※1名未回答

(意見)

- ・スピーチ5分は短いと思う。
- ・1名以外は時間以内にお話しされていた。
- ・もう少し時間があれば具体的な提案、問題解決方法に言及できたのでは。
- ・スピーチする方にとっては少し短いかもかもしれませんが聞いている方にはちょうどよい。
- ・短い思ったがしっかりまとまっていた。

(1) 第2部 (懇談会)

…①長かった 3 件、 ②ちょうどよかった 12 件、 ③短かった 8 件

※その他2人は懇談会不参加

(意見)

- ・市議や特定の人が話すぎている。
- ・交流の時間がたくさんあってよかった。
- ・時間内で話をまとめることができた。
- ・人数が6名と少なかったので十分話せた。
- ・皆さん話したいことがたくさんありそうだった。
- ・人数が多くなると話しをまとめるのは難しいと感じます。

問3 その他の感想や可見市議会へのご意見

- ・市民フリースピーチという初の試みに参加できたことはよかった。
- ・ぜひ次回も続けてほしい。幅広い世代の方から意見をお聴きしたい。
- ・人数の少ない分科会があった。事前に人を集める工夫が必要だったのではないのでしょうか。
- ・具体的な意見が少なかった。
- ・市民と議会の交流が実現したのはよかった。
- ・地元住民と市長、議員とのミーティングを開いてほしい。
- ・第2部の懇談会は特に有意義でした。機会があればまた参加したい。
- ・議員から、今までハードの面の充実に力を入れていたが、これからはソフト面に力を入れなければならないとの発言があって印象的だった。
- ・子育て世代の話聞いて次世代が可見市を作ることを考えてほしい。
- ・他自治会の方や議員と話す貴重な機会でした。災害図上訓練をぜひ学校、自治会で取り入れてほしい。
- ・市民に開かれた感じでよかった。今まで議会をあまり知らず関心もなく過ごしてきたが今回参加して色々な方の意見が聞けて良かった。さらに発展していくことを願っています。